

# はじめに

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター長 平塚 伸

平成30年度は第Ⅲ期中期目標・中期計画の3年目であり、フィールドサイエンスセンター(FSC)の目標として、「講習・生涯教育等の実施を通して地域の自治体・企業との連携を強化し、連携事業件数をⅡ期より20%増加する」が掲げられている。また、練習船「勢水丸」の目標は「共同利用拠点機能の強化により、他大学との共同利用を拡大する」である。30年度の具体的な実施予定項目は、「FSCの推進方策に基づく地域・社会への貢献」および「練習船の推進方策に基づく大学間共同利用の実施」であった。

年々教職員数が減っているにも拘らず、従来のミッションである本学学生の高等教育と研究に加えての数値目標を設定した目標・計画であるため、教職員が一丸となった一層の努力と合理化が求められている訳であるが、各施設とも十分な成果を挙げられたと考えている。

農場では、他学部および共同利用協定を結んだ三重短期大学生に対し、「生物資源学A(土は生きている)」を引き続き開講するとともに、近隣小・中学生を対象とした「教育ファーム」を実施した。さらに、生涯教育の一環として一般市民を対象とした「大学ファーム楽農講座」を開講している。演習林では「自然科学概論(森は生きている)」で三重短期大学との共同利用を図るとともに、全国農学系学部における単位互換協定に基づき、「森林総合実習」で他大学学生を受け入れて共同利用を推進している。また、津市の森林・自然アカデミー事業や地域の森作り講座による演習林利用を受け入れるなど、地域貢献活動に寄与している。附属練習船「勢水丸」は、引き続き名古屋大学を初めとする多くの大学学生の実習教育を担当しており、共同利用の申込大学数も増加している。また、拠点化に伴うシンポジウムや食文化プログラムなども開催し、多くの参加者から好評を得た。

本学学生に対する教育や研究業務に加え、これら共同利用や社会貢献活動を強化するためには、教職員それぞれが自らの置かれた立場を理解して協力し合い、目標達成に向けて努力することが重要である。教職員間の相互理解・協力体制を強化し、これまで以上の合理的運営・活動を推進する必要性を強く感じている。

最後に、皆様方にフィールド教育・研究の重要性についての更なる御理解とご支援をお願いするとともに、本書の発行に御尽力頂いた各位に感謝する次第である。